

平成 30 年 度

幼稚園教員資格認定試験

教職に関する科目(Ⅱ)

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験運営大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 運営大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 30 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。  
ただし、受験科目のマークについては、幼稚園の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。  
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。  
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 60 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊙ ⊗ ⊕ ⊛

問 1 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 1 幼稚園教育の基本」の一文である。文中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

教師は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に ① に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、 ② したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい ③ を創造するように努めるものとする。

	①	②	③
ア	主体的	工夫	生活環境
イ	自発的	工夫	教育環境
ウ	主体的	試行錯誤	教育環境
エ	自発的	試行錯誤	生活環境

問 2 『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 3 月文部科学省)「第 1 章 総説 第 2 節 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」に示された内容として適切でないものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 小学校の教師と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子供の姿を共有するなど、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが大切である。
- イ 3 歳児、4 歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある。
- ウ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園修了時までには到達すべき目標として指導することが求められる。
- エ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。

問 3 次の文は、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 3 月文部科学省)「第 1 章 総説 第 3 節 教育課程の役割と編成等」の一文である。文中の  に当てはまる語句として適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

園長は、全体的な計画にも留意しながら「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて教育課程を編成すること、教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を確保して改善を図っていくことなどを通して、各幼稚園の教育課程に基づき、全教職員の協力体制の下、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る  を実施することが求められる。

- ア 自己評価
- イ カリキュラム・マネジメント
- ウ 第三者評価
- エ PDCA サイクル

問 4 「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 4 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価」には、幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価の実施に当たって配慮する事項が示されている。その内容として適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにする。
- イ 指導の過程とは切り離して、幼児一人一人が到達した発達の姿を評価する。
- ウ 他の幼児と比較し、どの程度発達しているか把握する。
- エ 幼児一人一人の発達について、一定の基準に対する達成度についての評定によって捉える。

問 5 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 2 章 ねらい及び内容 環境 3 内容の取扱い」の一文である。文中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児が、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に ① を抱き、その意味や操作の仕方に関心を持ち、② に気付き、自分なりに考えることができるようになる ③ を大切にすること。

	①	②	③
ア	興味	物事の多様性	過程
イ	好奇心	物事の多様性	経験
ウ	興味	物事の法則性	経験
エ	好奇心	物事の法則性	過程

問 6 「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 2 章 ねらい及び内容 言葉 2 内容」として示されていないものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。
- イ 美しい日本語に触れ、語彙を豊かにする。
- ウ 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- エ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。

問 7 次の文章は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 2 章 ねらい及び内容 健康 3 内容の取扱い」の一部である。文章中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、幼児の興味や関心が ① にも向くようにすること。その際、幼児の ② に配慮した園庭や遊具の ③ などを工夫すること。

	①	②	③
ア	戸 外	発 達	構 成
イ	自 然	動 線	構 成
ウ	自 然	発 達	配 置
エ	戸 外	動 線	配 置

問 8 『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 3 月文部科学省)「第 2 章 ねらい及び内容 第 3 節 環境の構成と保育の展開 1 環境の構成の意味」に示された記述の趣旨として適切でないものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 遊具や用具、素材などの物的環境だけでなく、友達や教師、自然事象や社会事象、空間的条件や時間的条件、その場の雰囲気も環境を構成する重要な要素である。

イ 幼児の発達や興味関心に応じつつ、発達に必要な経験を満たす可能性をもつ環境を構成しなければならない。

ウ 幼児の活動の流れに即して、幼児が実現したいことを捉え、幼児の思いやイメージを生かしながら環境を構成していくことが大切である。

エ 幼児の主体性よりも教師の願いを最優先し、教師の立てた計画通りに環境を構成する。

問 9 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 3 章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」の一文である。文中の ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼稚園の運営に当たっては、子育ての支援のために保護者や地域の人々に機能や施設を開放して、園内体制の整備や関係機関との連携及び協力を配慮しつつ、① に関する相談に応じたり、情報を提供したり、幼児と保護者との登園を受け入れたり、保護者同士の② の機会を提供したりするなど、幼稚園と③ が一体となって幼児と関わる取組を進め、地域における幼児期の教育のセンターとしての役割を果たすよう努めるものとする。

- |   | ①      | ②   | ③   |
|---|--------|-----|-----|
| ア | 子 育 て  | 親 睦 | 家 庭 |
| イ | 幼児期の教育 | 交 流 | 家 庭 |
| ウ | 幼児期の教育 | 親 睦 | 地 域 |
| エ | 子 育 て  | 交 流 | 地 域 |

問10 文部科学省『幼稚園教育指導資料第 1 集 指導計画の作成と保育の展開』(平成 25 年 7 月改訂)「第 2 章 指導計画の作成の具体的な手順とポイント 2. 指導計画の作成のポイント (3)『ねらい』、『内容』と環境の構成を考える」に示された記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 教師自身があらかじめ発達を見通して、この時期に何を踏まえ、何を大切に具体的な環境を考えていったらよいのかなど、環境を構成するための発達の視点を明らかにしておくこと
- イ 教師自身が幼児を取り巻く環境に対して、いつも新鮮な目をもっていること
- ウ 幼児の生活の流れを捉え、幼児の興味や意識の流れに沿って、環境の構成を考えていくこと
- エ 幼児の主体的な活動を大切に、教師は、幼児の興味・関心のままに遊ぶ姿を傍観すること

問11 次の文章は、文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』（平成22年7月改訂）

「第2章 適切な幼児理解と評価のために 3. 日常の保育と幼稚園幼児指導要録」に示された指導要録についての記述である。文章中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

(1) 指導要録の法的根拠

指導要録は、どの幼稚園にも備えなければならない公簿です。各幼稚園長は、幼稚園教育要領の趣旨に沿って、指導要録を作成する義務があります。

～中略～

学校教育法施行規則第28条において、指導要録の「学籍に関する記録」は ① 年間、  
② は ③ 年間保存することが定められています。

	①	②	③
ア	20	「指導に関する記録」	5
イ	20	「発達に関する記録」	5
ウ	15	「指導に関する記録」	10
エ	15	「発達に関する記録」	10

問12 次の[A群]に示す演奏法の用語と、[B群]に示す演奏法の用語の意味の組合せとして、最も適切なものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

[A群]

- ① スラー                      ② マルカート                      ③ スタッカート                      ④ テヌート

[B群]

- a 音の長さを十分に保って                      b 音を短く切って  
c 音を途切れさせずなめらかに                      d 一音一音をはっきりと

	①	②	③	④
ア	a	d	b	c
イ	c	d	b	a
ウ	c	b	d	a
エ	a	b	d	c

問13 次の文章は、造形遊びの表現技法について説明したものである。文章中の  に当てはまる語句として適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

溶いた絵具を目の細かい網に塗り、網の上からブラシで擦って、下に置いた画用紙にしぶきを飛ばす技法を  という。様々な形に切った紙を画用紙の上に置いてしぶきを飛ばすことで、型抜きをしたような模様をつくり表現することもできる。

- ア スパッタリング
- イ フロッタージュ
- ウ バチック
- エ デカルコマニー

問14 次の①～④の各文章はそれぞれある人物について述べたものである。文章と人物の名前の組合せとして適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 口演童話家として、全国の幼稚園や小学校を行脚し、その普及に努めた。1910年には早蕨幼稚園を設立し、幼児教育にも力を注いだ。
- ② 1891年に『少年文学』叢書第1編として『こがね丸』を執筆した。この他、『日本のお伽噺』、『世界のお伽噺』などの叢書を発刊し、明治のお伽噺の第一人者として知られる。
- ③ 児童文学作家で、1910年に童話集『赤い船』を出版した。童話を文学に高めた先駆者として知られる。
- ④ 鈴木三重吉が『赤い鳥』を創刊する際、これに協力し、童謡運動を展開した。自らも童謡を発表するとともに、伝承童謡の収集や童謡詩人の育成、児童自由詩創作指導などを精力的に推進した。

	①	②	③	④
ア	久留島武彦	巖谷小波	北原白秋	小川未明
イ	巖谷小波	久留島武彦	北原白秋	小川未明
ウ	久留島武彦	巖谷小波	小川未明	北原白秋
エ	巖谷小波	久留島武彦	小川未明	北原白秋



問15 次の①～④の各文は「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年内閣府・文部科学省・厚生労働省告示第1号)「第1章 総則 第3 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項」に示されている記述である。正しいものを○, 正しくないものを×としたとき, 組合せとして正しいものを, 下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 満3歳未満の園児については, 園児一人一人の生育歴, 心身の発達, 活動の実態等に即して, 個別的な計画を作成すること。
- ② 満3歳以上の園児については, 在園時間ができるだけそろうように配慮し, 家庭や地域, 幼保連携型認定こども園における生活の連続性を確保すること。
- ③ 満3歳以上の園児については, 集中して遊ぶ場と集中して学ぶ場との適切な調和等の工夫をすること。
- ④ 0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育を園児の発達や学びの連続性を考慮して展開していくこと。

	①	②	③	④
ア	○	×	×	○
イ	○	×	○	×
ウ	×	○	×	○
エ	×	○	○	×

(全15問一以下余白)